

トリアージ「救命困難」の黒タグ

災害時などの治療優先度判定

調査は神戸大医学部医学科同窓会「神緑会」の研究事業の一環で、災害時の遺体の扱いや遺族支援などを考える「日本D MORT（ディモート）研究会」が中心となり、昨年7月に日本災害看護学会の参加者を実施。神戸市中央区でこのほど開かれた日本集団災害医学学会術集会で発表した。

回答者125人は85.6%が看護師で残りは医師ら。このうち実際にトリアージを行ったのは67.2%だった。

トリアージは、災害時や大規模事故で生じる多くの負傷者に対し、治療の優先度を4色で判定する「トリアージ」（選別）について、救急医らの研究班が全国の看護師らに意識調査をしたところ、優先度が最も低い「死亡または救命困難」を示す黒色のタグ（札）を患者に付けることに、約9割が「心理的負担が残る」と回答した。災害などから一人でも多くの人の命を救うためとはいえ、医療従事者にとってもつらい判断であることがうかがえる。

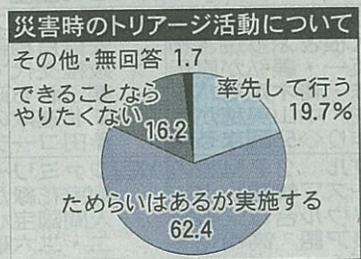
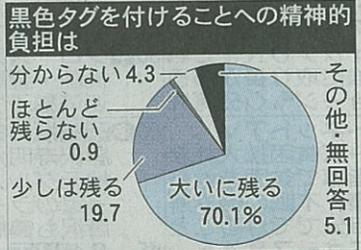
（岩崎昂志）

看護師9割「心に負担」

トリアージに使われるタグの色を状況に応じて切り離す

トリアージ 大事故や大規模災害で多数のけが人が発生した際、現場で医師らが負傷程度を判断し、病院搬送や治療の優先順位を決めること。患者に黒（死亡または救命困難）、赤（重症のため最優先で治療が必要）、黄（治療が遅れても生命に危険がない）、緑（軽症）のタグを付ける。阪神・淡路大震災で負傷者が多数発生し、救急対応が間に合わなかったことで必要性が広く認識され、尼崎JＲ脱線事故や東日本大震災でも行われた。

1/28神戸(朝)27面



四捨五入のため合計が100%にならない場合もある
兵庫医科大学病院・久保山医師ら調べ

「従事者のケア必要」 救急医らの研究班調査

調査は神戸大医学部医学科同窓会「神緑会」の研究事業の一環で、災害時の遺体の扱いや遺族支援などを考える「日本D MORT（ディモート）研究会」が中心となり、昨年7月に日本災害看護学会の参加者を実施。神戸市中央区でこのほど開かれた日本集団災害医学学会術集会で発表した。

回答者125人は85.6%が看護師で残りは医師ら。このうち実際にトリアージを行ったのは67.2%だった。

トリアージは、災害時や大規模事故で生じる多くの負傷者に対し、治療の優先度を4色で判定する「トリアージ」（選別）について、救急医らの研究班が全国の看護師らに意識調査をしたところ、優先度が最も低い「死亡または救命困難」を示す黒色のタグ（札）を患者に付けることに、約9割が「心理的負担が残る」と回答した。災害などから一人でも多くの人の命を救うためとはいえ、医療従事者にとってもつらい判断であることがうかがえる。

（岩崎昂志）



訓練でトリアージを行う医療関係者ら。負傷者にタグを取り付けるには心理的負担が残るといって西宮市内